

開館時間の変更

		中央図書館	中央図書館分室	泉キャンパス図書館	多賀城キャンパス図書館
一時閉館	クリスマス礼拝 12/12(木)、13(金)	12月12日(木) 14:50-17:00		12月12日(木) 10:20-12:20	12月13日(金) 10:20-12:20
開館時間	集中講義 1/6(月)~9(木)	9:00-19:30	10:00-18:00	9:00-18:00	9:00-17:00
	センター入試準備 1/17(金)			8:30-20:00	
	センター入試 1/18(土)		休館		
	学部春休み期間 2/1(土)~3/31(火)	9:00-19:30	10:00-18:00 (土曜休館)	9:00-17:00	
	前期日程入試 2/1(土)、3(月)	14:30-19:30	14:30-18:00 (土曜休館)		
	後期日程入試 3/4(水)	13:00-19:30	13:00-18:00		

※大学全体の為、2019年12月27日(金)~2020年1月5日(日)は休館いたします。

貸出期間の変更 ※学部学生のみ

貸出期間	返却期限日
12月11日(水)~1月14日(火)	1月14日(火)
1月29日(水)~3月31日(火)	4月15日(水)

試験に伴う変更

	学部学生	大学院生	教職員	本学院中高生	同窓生	学外者
相互・予約 受付停止	1月7日(火)~1月28日(火) 大学院生・教職員の相互貸借・予約(学習図書※は除く)はカウンターでお申込みください					
返却期限日	1月14日(火)					
図書貸出停止	1月15日(水)~1月28日(火) 大学院生・教職員は学習図書※のみ貸出停止					
入館停止	-			1月15日(水)~1月28日(火)		

※学習図書…黄色いラベルが貼ってある学部学生向けの図書です。

休日開館

1月12日(日)・13日(月・祝)・19日(日)・26日(日)

開館時間(全日) 12:30~19:30

※中央図書館分室は開館しません。19日(日)、26日(日)は同窓生、学院中高生、学外者の入館はできません。

開館日時は変更する場合がございます。最新情報は、図書館ホームページや館内掲示板でお知らせしています。

先生の本棚

5人の本学教員に、オスめの1冊を紹介いただきました。
図書館で借りることもできますので、ぜひご一読ください。

文学部・教育学科

紺野祐 先生

『暴力の人類史』 スティーブン・ピンカー著、幾島幸子、塩原通緒訳

青土社, 2015

(泉キャンパス図書館所蔵)

本書の邦題は『暴力の人類史』だが、原題は“The Better Angels of Our Nature”である。このタイトルの付け方を見ればわかるとおり、本書は人間という生物がもつ悪魔的に暴力的な側面と、天使のように優しさ・配慮あふれる側面とを扱っている。そして、人類の歴史を長い目で見たととき、後者が前者を徐々に駆逐し、いまに至っていることを明らかにしている。



法学部・法律学科

木下淑恵 先生

『ストックホルムストーリー：福祉社会の源流を求めて』

岡澤憲美著 早稲田大学出帆部, 2004 (中央図書館所蔵)

福祉国家スウェーデンについての本なのですが、1冊でさまざまな顔をもっています。政治の特徴と福祉国家への歩みを分析した政治学の本でもあり、女性や高齢者をとりまく環境について分析した本であり、首都ストックホルムの歴史を語る本であり、そしてストックホルムの町の案内本でもあります。平易な文章と数多くの写真で、肩のこらない読書ができるでしょう。政治に関心のある人、女性や高齢者の問題に関心のある人、スウェーデンやストックホルムに行ってみたい人、どの人もそれぞれの読み方で楽しめます。



工学部・機械知能工学科

佐瀬一弥 先生

『趣味で物理学』

広江克彦著 理工図書, 2007

(多賀城キャンパス図書館所蔵)

この本はウェブサイト「EMANの物理学」を作成している著者が同サイトの内容を書籍化したものです。物理学の本ではありますが、授業で用いられるような一般的な教科書とは異なり、教科書より気軽な読み物のように書かれた本です。私が大学生のころに出版され、楽しんで読んだ記憶があります。中学生・高校生でも読めるように配慮されており、数学知識に自信がなくても納得しながら読み進められると思います。公式の暗記でその場しのぎをしてきた学生や、物理学に興味があるが学ぶ機会がなかった学生におすすめします。



教養学部・地域構想学科

高野岳彦 先生

『アルプスの谷に亜麻を紡いで』

舟田詠子著 筑摩書房, 1986

(中央・泉キャンパス図書館所蔵)

アルプスというと、氷河と湖畔のリゾートをイメージするが、観光地からは離れた山村には伝統生活が息づいている。著者はパン文化の研究で知られるが、本書はその源流の村に分け入り、政治変動と近代化の波の中で生きてきた老人たちの人生に向き合った。とりわけ高齢女性たちが経験してきた結婚、出産、家庭生活の物語りと時々の葛藤には心を動かされずにいられない。「亜麻」は女性の髪の毛の形容に使われるが、それはアルプスの厳しい生活の中で女性たちが少しずつ織りなして継承されるものであった。専門書に記されるはずもない西欧奥地の普通の人生に映る歴史、社会、文化。学問分野を超えたルポルタージュの力が本書にはある。



教養学部・言語文化学科

松谷基和 先生

『金大中自伝(上・下)』

金大中著 岩波書店, 2011

(泉キャンパス図書館所蔵)

日韓関係が大きくきむ昨今。果たして金大中元大統領が生きていたらという思いを拭いきれない。金大中は、現在の学生諸君が生まれた頃の韓国の大統領。日本の植民地支配下で教育を受け、韓国独立後は野党政治家として対立する軍事政権から迫害され、逮捕、投獄、死刑判決まで受けた人物。それを生き延びて晩年大統領となり、政敵との和解や北朝鮮との関係改善に動く一方、日本との和解、関係強化にも尽力し、今日まで続く日韓の文化交流の基礎を築いた。本書を通して、彼の日本への深い理解と真摯な姿勢のみならず、当時の日本側にも、現在の安倍政権とは異なり、歴史と隣国の前に謙虚で配慮ある政治家やリーダーが少なからず存在したことをぜひとも知って欲しい。



お探しの本が見つからない場合は、図書館カウンタースタッフへお問い合わせください。